

# 地域の公民館として改めて考える

## 講座編

### 現状と問題

地域の公民館として「住民の身近な存在でありたい」と思い続けて4年が過ぎようとしている。広報を中心に連携などに力を注いできたが、暗中模索、試行錯誤、紆余曲折の繰り返し…。それでも、時々小さな小さな成果に励まされながら日々の業務に取り組んでいる。

### 取り組みと結果

これまで同様、広報の充実と連携の開拓に取り組んだ。昨年に引き続き新規講座の企画にも注力。

#### 広報のプチ拡大

##### <取り組み>

当館以外には、香焼図書館と三和公民館にしか置いていなかった「映画と時代を考える（名作洋画上映会）」のチラシを深堀地区ふれあいセンターと伊王島地域センターにお願いして設置した。

##### <結果>

深堀地区からの参加が増えている。以前は1、2名いたり、いなかったりだったのが、最近は参加者の3割前後を占めるように。歩いて来られる範囲であることも幸いしているのか、誘い合わせて参加いただいている。地味ながら効果をあげている！…かもしれない。



映画と時代を考える チラシ

#### 新規講座の構築

##### <取り組み>

昨年度は年間5つの新規講座を実施したが、今年度につながったのは2つ。社会・地域の課題やニーズなどを勘案して企画したつもりだったが、多くは受講者が集まらず厳しい結果となった。今年度も懲りずに、春2つ、夏3つ、秋2つの新規講座を企画。いくつかを取り上げると…

##### <結果>

##### ◎時を刻むパステルアート（時計仕立て）【夏休み】

ほかの公民館で開催がなく、夏休みの宿題にもなりそうだと（去年も同様に考えて企画した講座は惨敗）と企画。大人も含めて12人が受講し、評価も悪くなかった。来年度は成人講座で試してみようと考えている。

##### ◎親子でCHA・CHA・茶（茶道体験）【夏休み】

「誰でも気軽に茶道を楽しんでほしい。特に子どもたちにお茶に親しんでほしい」という茶道経験者が香焼におられ、講座が実現。複数回打ち合わせ、シミュレーションもしたが、当日は時間に余裕がなかった。次の機会には、ある程度の人数が体験できるやり方を講師と一緒に研究したい。



親子でCHA・CHA・茶

アレンジメント

リース



◎フレッシュ＆ドライ「花のある小さなしあわせ」【春】  
 年末年始を彩る「フラワーリース」【秋】

花に関わる仕事をされており、アレンジメントの指導を始めた香焼の方からお話をいただいて春と秋に企画。

春は担当者を相手にデモをお願いするなどして準備したが、講座では一人ひとりに指導するうち予定時間をオーバー。秋は、受講者の作業速度が講師の想定よりもかなり遅かったらしく、またも大幅に時間超過。

いずれも受講者は楽しく取り組んでおり、完成品への満足度も高かったが、講座の進め方に課題が残った。

◎女性のちょい漏れに「骨盤底筋トレーニング」【春】

メディアで目や耳にすることも増えたが、知らない人も多く、また自己流でやるのは難しいので、女性の悩みを解消する助けになればと企画。思った以上に申し込みがあり、受講者の要望で補習も実施した。コツをつかむには回数や時間が必要であり、効果を実感するには継続が大事なので、来年度も実施したいと考えている。

これらの講座を実施して、新しい講師と講座を作り上げていく難しさを感じた。担当としては専門的な知識はないなりに受講者の立場に立ち、分かりやすく楽しく取り組める講座になるよう考えて講師とも相談しながら企画・実施するが、思ったとおりにいかないことも多い。経験の浅い講師に対しては、講座の運営に関してはもちろん、指導スキルを磨いていただくお手伝いやサポートをしていく必要がある。



花のある小さなしあわせ



骨盤底筋トレーニング

## 連携の新たな展開

### <取り組み>

昨年度から広報で連携している「深堀・香焼地域包括支援センター」に講師4名を紹介した。また、香焼文化フェスティバルを主催する「香焼まちづくり協議会」にも2名紹介。

### <結果>

地域包括支援センターは「認知症カフェ」のメニューとして、「茶道」と「アロマクラフト」を採用され、実施した際は参加者から喜ばれたとのこと。香焼文化フェスティバルでは紹介した2名ともがワークショップを実施し、指導の際の参考になったと思われる。主に新人講師をご紹介しており、指導の経験を積む場とさせていただくことができ、当館としてもありがたく思っている。

## 課題とこれから

今年度も、地域の方や公民館で活動する方とのご縁で新たな講座を実施することができた。これらの人たちの活躍の場を広げるためにも、今後は人材の発掘と併せて育成にも意識を向けたいと思う。

これからも、住民が公民館に“親しみを感じ”“興味を持つ”ような情報の発信に心掛け、利用の促進にもつなげたい。また、地域の人や団体、公民館の利用者などをつなぐことにも積極的に取り組み、地域の公民館として役に立てるようになりたいと思う。

(文責 水芦 嘉子)